

LIXIL

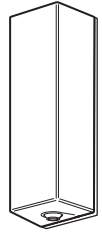
ポーチライト
LPJ-18型

取付説明書

保管用

お客様へ 器具の施工には電気工事士の資格が必要です。
必ず、販売店、工事店に依頼してください。

工事店様へ ■施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。
この説明書は必ずお客様にお渡しください。
■施工説明に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない
方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、
当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生
じた場合は、製品保証の対象外となります。



安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や
損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある
内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が
発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を、次の図記号で
説明しています。(下図は図記号の一例です。)



してはいけない内容です。



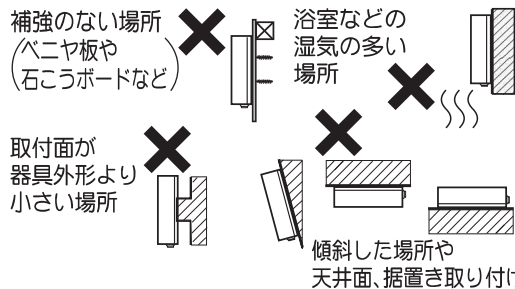
実行しなければならない内容です。



警告

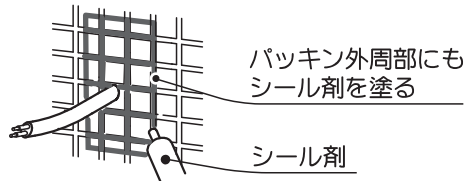
■取付面

- 次のような場所には取り付けない
火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。



◎この器具は防雨型、壁面取付専用です。
(防湿型ではありません。)

- 取付面と本体パッキンのスキマおよび
パッキン外周部にシール剤を塗る



本体パッキンと取付面とのスキマを防水シール剤
などで埋めてください。また、背面より水のかか
る場所へ設置しないでください。
指定外の取り付けは絶縁不良による感電の原因と
なります。

■壁スイッチ

- 調光機能が付いた壁スイッチの場合は、
一般の入切用スイッチに交換する
火災の原因になることがあります。



必ず守る



◎調光器の取り外しが必要です。

■その他

- 器具の取り付けは、説明書に従い確実に
取り付けに不備があると、火災、感電、落下による
けがのおそれがあります。
- 交流100ボルトで使用する
過電圧を加えると過熱し、火災、感電のおそれ
があります。
- 検知部が下になるように取り付ける
浸水による感電のおそれがあります。検知部
- 電源線は端子台の差込み穴の奥まで確実に差込む
差込みが不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。
- 電源線に保護チューブを装着し絶縁テープで固定
する
装着、固定しないと火災、感電のおそれがあります。



必ず守る



アース線接続

注意



● 温度の高くなるものの上に取り付けない
ガス機器やその排気筒の上に取り付けない
ください。
守らないと火災の原因となることがあります。



● 器具の取り付け取り外しは手袋など保護具
を使用する
けがのおそれがあります。

施工前のご確認事項

設置場所についてのご注意

● この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に取り付けると誤動作の原因となります。

<p>禁止</p> <p>反射の強い床面のある場所</p>	<p>禁止</p> <p>風などでよくゆれる植物の近くなど</p>	<p>禁止</p> <p>取付高さが3mをこえる場所</p>	<p>禁止</p> <p>換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機などの近く</p>	<p>禁止</p> <p>他の照明器具に近い場所</p> <p>40cm以内</p>
<p>禁止</p> <p>交通量の多い道路に面した場所</p> <p>車など人より大きな熱量の場合、取扱説明書記載の検知範囲より広がります</p>	<p>禁止</p> <p>前面に障害物のある場所(透明なガラスも含む)</p>	<p>禁止</p> <p>振動の激しいポールなど不安定な場所</p>	<p>禁止</p> <p>昼間でも暗い場所や夜間でも明るい場所</p>	

配線についてのご注意

■ 必ず、壁スイッチを設置してください。(スイッチは別途ご用意ください)

- ・センサによる動作に異常が発生したとき、リセット操作に壁スイッチが必要です。
- ・長期間使用しない時や、お手入れの際に電源を切ることができます。
- ・壁スイッチの動作による連続点灯への切り替えができます。

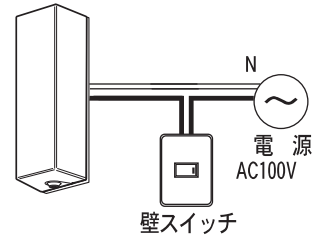
● 通常は壁スイッチをONにした状態でご使用ください。

● ほたるスイッチと接続する場合は1回路につきスイッチ3個まででご使用ください。
(4個以上のほたるスイッチと接続すると、スイッチを切にしても器具が消灯しないことがあります。)

● 壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチがON状態でも照明器具が消灯状態(センサ待機状態)のときは、パイロットスイッチ表示が点灯しない場合があります。(故障ではありません)

● 壁スイッチ1個で2台以上のセンサ照明器具を使用しないでください。点灯状態が、同時に切り替わらない場合があります。

● 一般照明器具や換気扇との連動はできません。

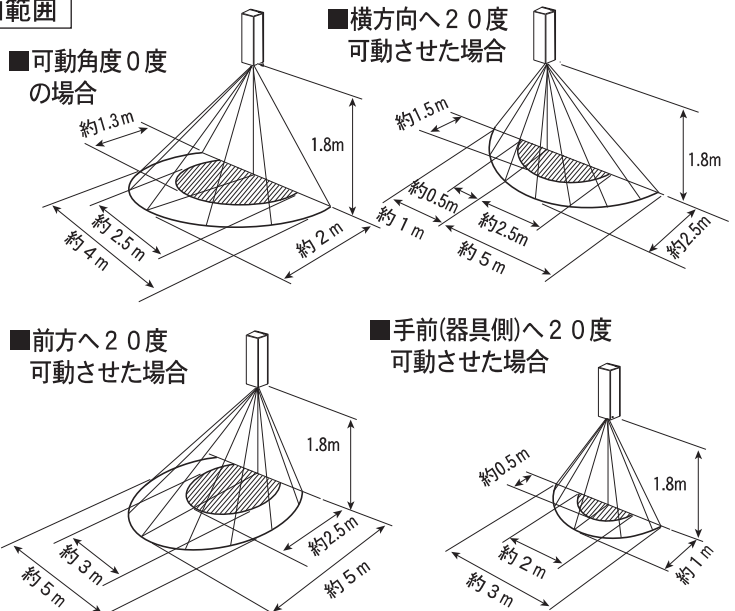


検知範囲について

- 検知部は真下にした状態から全方向に約20度可動します。
- センサはおおよそ右図の「検知範囲」で検知します。右図の「検知範囲」を参考にして検知部の角度を調整してください。(記載の検知範囲はあくまで目安としてお考えください。)
- 器具の取り付け高さ1.8m(標準)～3mの間では、検知範囲は変わりません。
- センサは、人の動きなど温度変化を検知しています。

(注) は別売エアアカットフード(パナソニック(株)品番:HK279020)を取り付けた時の検知範囲です。

検知範囲



センサ動作について

検知しにくくなる場合

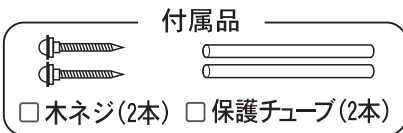
- ・ 肌の露出部分が少ない場合(着衣の表面温度は一般的に体温よりも周囲温度に近い)
- ・ 夏場など周囲温度が体温に近い場合
- ・ 検知部を可動させ広がった側の検知範囲
- ・ 検知範囲に入る速度が速い場合
- ・ センサの向いている方向に向かって近づいた場合
- ・ 人が静止しているとき

人がいないのに点灯する場合

- ・ 近くに照明器具がある場合
- ・ 道路を通行する人、車、犬、猫などを検知したとき
- ・ 風、雨、木のゆれなどを検知したとき
- ・ 急激な温度変化を検知したとき
- ・ 換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機などの温度変化の影響をうけたとき
- ・ 強力な電波、誘導雷サージなど電氣的雑音を受けた場合
- ・ 約2秒以内の短い停電(瞬時停電)が起こった場合

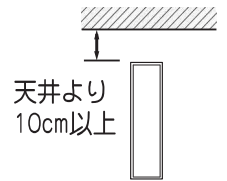
付属品の確認

- 付属の木ネジ(2本)と保護チューブ(2本)があることを確認してください。



取り付け時のご注意

- この器具はカバーの取り外しに右図の空間が必要です。



調整ツマミの設定について

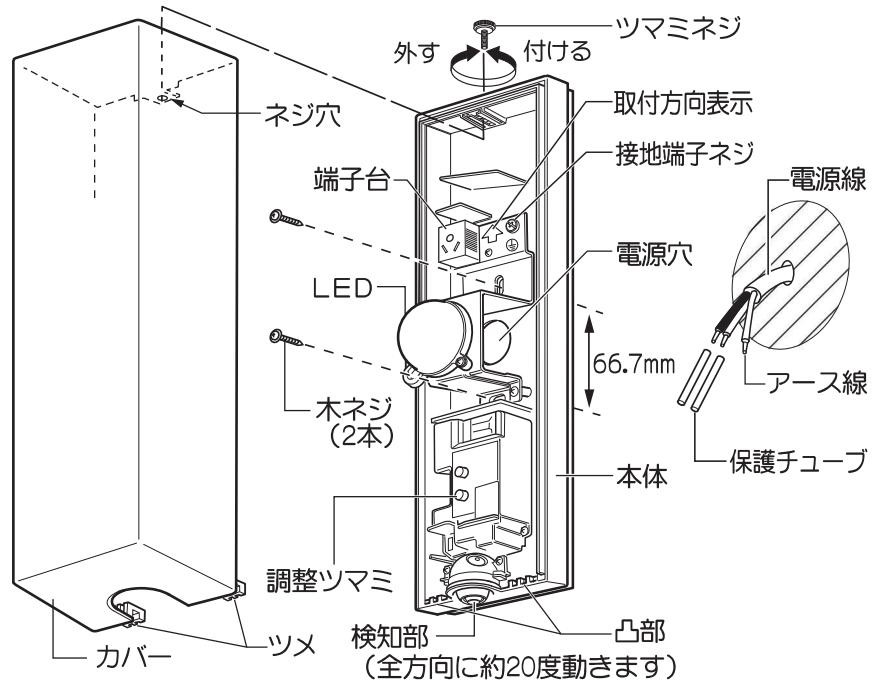
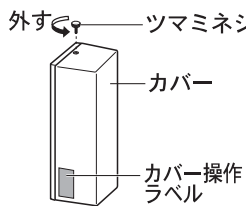
- この器具は取り付け後、ご使用の環境に合わせてセンサの検知範囲、調整ツマミの設定が必要です。必ず、「検知範囲と調整ツマミを設定する」をお読みのうえ、設定してください。

各部のなまえと取り付けかた

安全のため、電源を切ってから行ってください

取り付け前の準備

- カバーを外す
カバー操作ラベルの手順に従い、本体からカバーを取り外してください。

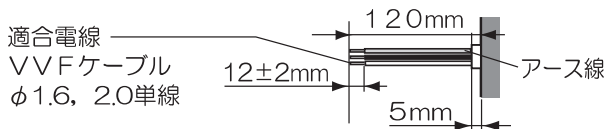


1 本体を取り付ける

- 取付方向表示に従い補強材のある場所に付属の木ネジ(2本)で取り付けてください。
- 器具取付ピッチ 66.7mm

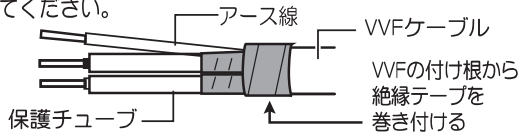
2 端子台に電源線を接続する

①電源線を下図のように加工する <電源線加工寸法>



②電源線に付属の保護チューブを装着する。

- 保護チューブの位置ズレ防止のためVVF外皮から絶縁テープを巻付けてください。



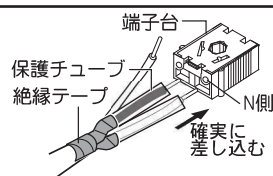
警告



電源線に保護チューブを装着し絶縁テープで固定する
装着、固定しないと火災、感電のおそれがあります。

③電源線を端子台に差し込む

- 電源線は端子台の差込み穴の奥まで確実に差し込む。
接続が不完全な場合火災の原因となることがあります。



3 接地工事をする

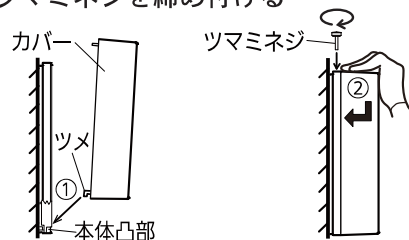
- 接地端子ネジからD種(第3種)接地工事を行う
アース線を接地端子ネジに取り付けてください。

4 検知部の調整と調整ツマミを設定する

- 「検知範囲と調整ツマミを設定する」(4ページ)を参照して設定してください。

5 カバーを取り付ける

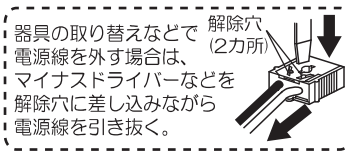
- ①本体凸部にカバーのツメを上側から差し込む
- ②カバーを真下に引き下げた後、壁方向に押しながら最後までツマミネジを締め付ける



注意



カバーは確実に取り付ける
守らないと、落下の原因となることがあります。



検知範囲と調整つまみを設定する

昼間でも設定できます。

設定の前のご注意

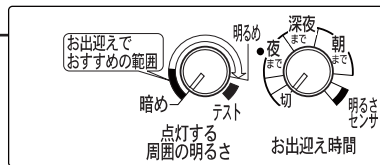
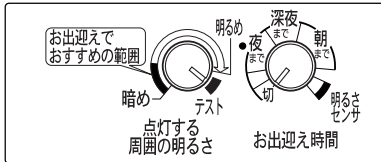
- (1)壁スイッチをOFFにする
- (2)カバーを取り外す

1 センサの検知範囲を調整し、点灯確認をする

出荷時の設定

[手順]

①あらかじめ、調整つまみを以下の設定にする



点灯する周囲の明るさ——「テスト」(右いっぱい回す)
お出迎え時間——「切」(左いっぱい回す)

②検知部を動かし、設置場所に合わせて検知範囲を調整する

- 検知部は、全方向に約20度動きます。
- センサの検知範囲は、 2ページ「センサの検知範囲」を参照ください。

③壁スイッチをONにし、センサの検知範囲の外に出る

➡ 約40秒間点灯してから消灯します。

消灯しない場合は、以下の原因が考えられます。

- お出迎え時間が「切」になっていない ⇒ お出迎え時間を「切」にする
- センサの検知範囲に入っている ⇒ センサの検知範囲から外に出る
- 連続点灯になっている ⇒ 壁スイッチを一度OFFにし、5秒以上おいて再び壁スイッチをONにする (検知部が赤く光ったまま)

④消灯したら器具に近づいて、点灯することを確認する

- センサの検知範囲の外に出てから約5秒後に消灯します。

2 壁スイッチをOFFにする

3 使いかたに合わせて調整つまみを設定する

以下の4種類の使い方ができます。(詳しくは 取扱説明書3ページ)

使いかた	お出迎えモード	ON/OFFモード	明るさセンサモード	テストモード
動作	暗くなったら点灯 設定時刻になると消灯 設定時刻以降は人が近づいたときに点灯	暗くなって、 人が近づいたときに点灯	暗くなったら点灯 明るくなったら消灯	明るさに関係なく 人が近づくと点灯 検知範囲から出て 約5秒後消灯
おすすめの つまみ設定				
詳しい 設定方法	取扱説明書4ページ	取扱説明書5ページ	取扱説明書6ページ	検知範囲を確認 するときに使用

4 カバーを取り付ける

3ページ「各部のなまえと取り付けかた」 5参照

5 壁スイッチをONにする

➡ スイッチONにした直後は周囲の明るさに関係なく、約40秒間点灯します。

ご注意●お出迎えモードに設定した場合

壁スイッチをONにした初日は、手順3で設定した「お出迎え時間」つまみの位置に関係なくお出迎え点灯は約4時間で終了します。翌日より設定した時刻通り終了します。

取扱コード

EXM-048

202202A_1009